

砂質シルト岩のクリーグ破壊に至る際の間隙水圧変化について

京都大学工学部 正員 赤井 清一
 京都大学工学部 正員 大西 有三
 京都大学大学院 学生員○吉田 順

1. まえがき

岩石といふものは、これまでの数多くの研究によつて、ダイレイタニーの性質を示し、時間依存性をもつ非弾性体の材料であることがわかつてゐる。特に、軟岩においては時間依存性の問題、なかでもクリーグ変形の問題は工学的に大きな課題である。従来、たくさんの研究者により、軟岩のクリーグ特性が明らかにされていゝが、クリーグ変形の際の間隙水圧の変化についてはあまりふれられていない。そこで、今回の研究では、間隙水圧と時間の関係、あるいはクリーグ変形との関係を調べるために三軸非排水クリーグ試験を行なつた。とくに、クリーグ破壊の予測に間隙水圧を利用できなかと言えたために、破壊に至る際の間隙水圧変化について考察したものである。

2. 実験方法

試料として砂質シルト岩を用いたが、その飽和度は約100%、間隙水圧係数Bもほぼ1と測定された。この試料を直徑5cm、高さ10cmの円柱形に加工したものと最大側圧30kg/cm²の三軸セル内にセットし、まず24時間の圧密をセル圧5kg/cm²、バックアーチレッシャー3kg/cm²で行なつた。つづいて荷重速度0.1kg/cm²/secの応力制御せん断を行なつたが、その際10秒ごとに間隙水圧および軸変位の測定を行なつた。そして、あらかじめ定めたいための応力を一定に保つて、クリーグ試験を実施した。

クリーグ開始後も所定の時間ごとに間隙水圧と軸変位を測定した。

3. 実験結果および考察

Fig. 1-(a), (b)が、破壊までの時間が短い場合の時間-軸ひずみ関係、時間-間隙水圧関係を表わしたものである。Fig. 1-(a)を見ると通常クリーグ曲線はあまりほそくないが、ほぼ典型的なクリーグ曲線を描いていゝといふといふ。これとFig. 1-(b)を比べてみると上下の向きをこぎ替わつてゐるが、これもクリーグ曲線にはしていゝといふだろ。つまり、間隙水圧も軸ひずみと同じように挙動を示していゝことである。そこで、間隙水圧と軸ひずみの関係をとつたのが、Fig. 1-(c)である。この図を見ると明らかにクリーグ変形の際

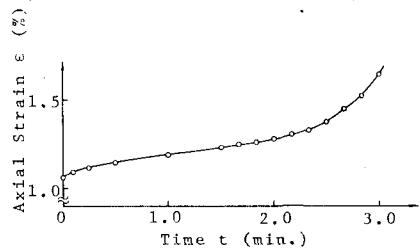


Fig. 1-(a) 時間-軸ひずみ関係

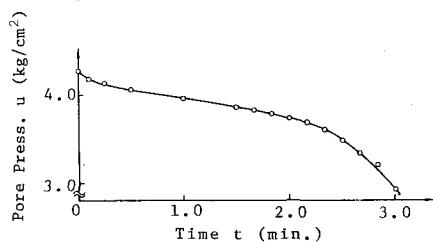


Fig. 1-(b) 時間-間隙水圧関係

には、軸ひずみと間げき水圧は線形関係にあると考えられる。といふことは、三軸非排水クリープ試験を行なった場合には間げき水圧と軸ひずみは同じような挙動を示すので、一方がわかれれば他方は測定しなくともよいのではないかと考えられるが、これは短い時間でクリープ破壊に至ったものであるのを次に破壊まで長い時間を使った例を示す。Fig. 2 がその間げき水圧と時間の関係を表わしたものである。これを見ると Fig. 1-(c) のような関係はこの場合にはあてはまらないのであるが、その理由には次のようなものがあげられる。

まず、間げき水圧はある時間以後では定常状態に至り、ある程度の幅で上下して破壊に至る際にまた変化するのではないかといふこと、次に、実験に使用した間げき水圧計が長時間使用すると誤差を生ずるのではないかといふことがある。

この二つの理由が考えられるが現時点では後者の方が妥当ではないかと考えている。

Fig. 3 は、少し特殊な例でせん断面が入った後もすぐには破壊に至らなかつたものの間げき水圧と軸ひずみの関係であるが、この場合にも軸ひずみが 2% のところまでは線形関係にあるといえるだろう。この 2% カとニコカラうどせん断面の入った点があり、それ以後も関係は変わらず線形関係にあるのではないかと思われるが、この図からも間げき水圧と軸ひずみ線形関係にあると言ふことわかる。しかし、今回の実験では非排水セル压、バックプレッシャーも一条件による結果しか得られていないので、他の条件はどうなるか、また排水にした場合の体積ひずみと軸ひずみの関係とどのような関連をもつかといふことが今後の課題である。

4. 結論

三軸非排水クリープ試験を行なった場合にクリープ破壊に至る際の間げき水圧変化を見るとどうぞクリープ曲線を裏返した形になるのであり、軸ひずみとは線形関係にはない。しかし、今後いろいろな条件の実験を行ない、この関係が他の条件の場合にもあるかどうかを確かめねばならないだろう。

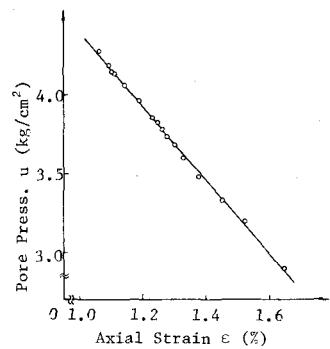


Fig. 1-(c) 軸ひずみ-間げき水圧関係

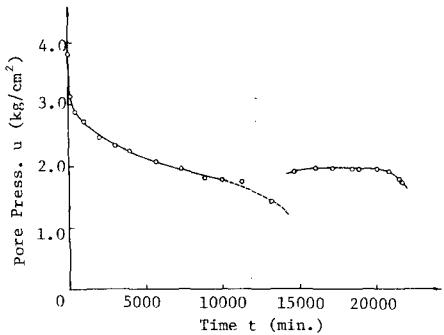


Fig. 2 時間-間げき水圧関係

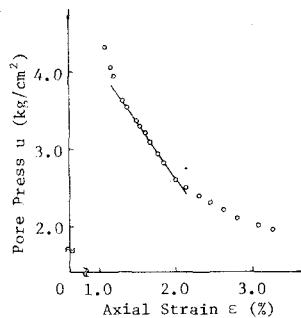


Fig. 3 軸ひずみ-間げき水圧関係